琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件　沖縄関係　日本政府援助本土米供与(産業開発資金)(2)

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2019-02-05
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: -
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43578

日米協議本 日米発言

極秘
無期限
部の内号

大臣
大臣秘書官

アメリカ局長
参事
北米第一課長

沖縄向け本土米供与

46.1.19
米北1

1. 本1月19日 在京米大 キリオソより、本日の協議委において、マイヤー大使は本件につき別添1の発言を行なう予定なる旨連絡越した。

2. 右発言に対しては、愛知大臣より別添2の如く御発言願うことと致したいので御高裁を仰ぎます。(英訳案 別添3)
(なお、上記1の米案提示に先立ち18日米側は別添4の発言案を提示越したところ、右案えには日本が米側とconcurrentlyにGRIをurgeする

GA-5 外務省

2

というが如き、調整を要する箇所があり、協議委を控えてかかる調整に手間どることは適当でないほか、本件については米側発言をまたずとも日米間に充分了解が出来ている(別添5参照)ので、かかる発言は見合わせられたい旨米側に申し入れた。しかし、米側は協議委において本件につき何らかの発言を行なうべきしとの訓令を受けている由であるので、本19日協議の結果、別添1のとおりの米案提出をみたものである。)

3. 本件については、対策方と連絡調整ずみ

GA-6 外務省

別添1.

マイヤーたち共発言テキスト

It is the understanding of the USG that the two Governments will cooperate on the shipment of Japanese and commercial rice to Okinawa.

外務省

大臣御発言案

また日本政府と致しましては沖縄に対する米の供給が充分且つ円滑に行われることを希望しております

別添3

愛知外務大臣発言（英訳案）

The program of providing Japanese rice to Okinawa aims at improving the key industries there including agriculture. The GOJ hopes that necessary amount of rice will be supplied ensured in Okinawa without disturbances.

GA-6

外務省

18θ案

アメリカ局長
参事官
北米才一課長

別添4

マイヤー大使 ステートメント（案）　46.1.18 米北1

With respect to the 50.000 Ton of rice valued approximately at 9.1 million dollars which the GOJ will ship to Okinawa under the reversion measures program, I would like to note also the understanding of our two Governments that prior to shipment, we work out a mutually acceptable shipment schedule and concurrently urge the Ryukyuan Government to hold to a

GA-6　外務省

(1) 18θ午後4:45 オリオンより電話連絡あり。(2) 大河原参事官とも協議の上、米北1より、(イ) 本件については8米間に充分了解が出来ており、(ロ) 本発言案中には調整を要する部分があり（たとえば我方は support するとは言ったが urge するとは言っていない）、(ハ) 駄を[illegible]る為本発言は行なわないこととするよう申し入れずみ。（5時）。明朝確認すべきも、ア時現在米側の反応なく、米側は当方立場を認めたものと思われる。

2

minimum disturbances to the commercial rice market by maintaining Okinawa rice reserves at their customary levels of the past few years.

GA-6　外務省

極秘
無期限
部の内号

別添5

大臣秘書官

アメリカ局長
参事官
条約課長　摘　北米第一課長

対沖縄本土米供与問題

46.1.14

米北1

1. 1月12日 在京米大 エドモンド公使より大河原

参事官に対し、(イ)対策庁によれば 1971暦年
における 日本本土米の対沖縄輸出量は

50.000トンを予定し、他方諸外国から沖縄
への輸出量は 9.000トンしか予定されていない

由であるが、(ロ)米側としては 9.000トンという
僅かな輸出量では問題にならず、年間
(沖縄における米の消費量からすれば)
30.000トン程度の輸出が認められるはずで
ある、この点につき日本側の協力がえられない

限り 米側は日本側の50.000トンにも合意

せず、本件が落着しない間は 1980の日米協議委
の開催にも応じられない旨述べた。

2. これに対し 当方よりは (イ) 日本側の 50.000トン
については 昨年12月ワシントンにおける大河原

参事官、エリクソン日本部長会談以来 (米来電
第 3814号、別添(1)) 今日までの間に農務省

関係者の acquiescence がえられたものと了解
しおり、また (ロ) そもそも 米国産米の対沖縄輸出

量の決定は米側と琉球政府間で話し合わるべき
問題である、いずれにせよ 米国産米の対沖縄

輸出 30.000トンとの数字は初めて目にする
話であって、その輸出が認められることと

ならない限り、協議委員会の開催に

応じえないとの米側の立場は了解しがたい

旨答えた。

3. 14日米側は(イ) spacing (在庫量との関連で月別輸入量等を調整する)、及び(ロ)琉球政府が現在の在庫をとりくずしてその分だけ諸外国からの米の輸入量を殺えるという方策をとらざるよう米側から同政府に働きかける

かける際日本政府は米側を支持すること、の2点につき協力を求め越したところ、同日夕刻エドモンドより大河原参事官に対し、以下の2点、即ち、

(1) 日本政府は沖縄における米のspacingにつき十分米側に協力すること、

(2) また日本政府は琉球政府(対米庁)に対し、琉球の在庫に関する従来のpractice

をmaintainするようurgeすること、

を条件として1971年の日本本土米50,000トンの対沖縄輸出に合意する、との趣旨の

recommendationを本国に打電したいが、右に2日本側は異議なきやと照会越した。

4. これに対し大河原参事官より、(イ)上記3(1)のspacingについては協力しうると

思うが、(2)の点については何ともいえない、但し(ロ)日本政府の了解はえていないが、在京米大使館限りの案として本国の

意向を確認するのであれば別に反対は

しない旨回答しおいた。

5. 後刻北米1課より、対米庁亀谷振興課長

に対し電話を以て上記2、前段の経緯に

つき説明の上了解を求めたところ、

同課長は (イ) spacing の面で協力する

との面(点)には問題なく、(ロ) 日本側として

琉球政府に対し在庫量を消費に回すこと

によって外国からの輸入量を削減する

よう勧奨するつもりは~~な~~ないし、もし米側が

琉政に対しそのような方策をとらざるよう

申し入れるのであれば~~ばそれは~~、日本側として米側を

支持しても差支ないと思う旨述べた。

6. 当方より上記5(イ)(ロ)の趣旨を米側に伝えたところ、米側は納得した。(但し、米側は

当初上記5(ロ)の点を日米の joint approach と誤解していたので、当方より、

右は joint approach に非ず、米側が

GRIにアプローチを行なった後に日本側

が GRIに対し別途アプローチの上米側の

立場を支持することとする意味である旨を

確認しておいた。)

極秘
無期限
部の内号

アメリカ局長
参事官
北米第一課長

第21回日米協議委員会における沖縄向け本土米供与問題に関する日米双方の発言

46. 1. 22
アメリカ局北米一課

第21回日米協議委員会において、山中総務長官が、昭和46会計年度における日本政府の沖縄復帰対策計画につき説明の後、本件に関し、マイヤー駐日米大使及び愛知外務大臣が発言した内容は、それぞれつぎのとおり。

1. マイヤー大使：日本政府が復帰対策計画に基づき沖縄に船積みする約910万ドル相当の米50,000トンの供与に関し、私は、

決裁後、写を対米方（岡田総務部長）に送付することとしたし。

沖縄での市場向け米穀及び日本の供与米の沖縄に対する輸出に当っては、日・米両国政府が協力していくということが米側の了解であると申上げたい。（別添 英文参照）

愛知外務大臣：日本政府としては、沖縄に対する米の供給が十分、かつ、円滑に行なわれることを希望しております。

With respect to the 50,000 tons of rice valued at approximately $9.1 million, which the Japanese Government will ship to Okinawa under the reversion measures program, I would like to note that it is our understanding that the two governments will cooperate in the shipment of commercial and Japanese rice to Okinawa.

Meyer

In response to Minister Yamanaka's presentation, you may wish to make the following statement:

AMBASSADOR MEYER: Thank you, Mr. Chairman. On behalf of the United States Government, I am pleased to accept as the Japanese Government's reversion measures program to Okinawa for Ryukyuan Fiscal Year 1972 the measures which Minister Yamanaka has outlined in the total amount of $166,722,681. In accepting this program, I wish to take note of the understanding between our two Governments that we will consult further concerning the "Indirect Hire," the "Weather Radar Station," and the "Chatan-Koza Road" projects in order to reach mutual agreement on details of these projects prior to their implementation.

With respect to the 50,000 tons of rice valued at approximately $9.1 million, which the Japanese Government will ship to Okinawa under the reversion measures program, I would like to note ~~also the understanding of our two Governments that prior to shipment we work out a mutually acceptable shipment schedule and concurrently urge the Ryukyuan Government to hold to a minimum disturbance to the commercial rice market by maintaining Okinawa rice reserves at their customary levels of the past few years.~~ that it is our understanding that the Two Governments will cooperate in the shipment of commercial and Japanese rice to Okinawa. Finally,

With respect to the 50,000 tons of rice valued at approximately $9.1 million, which the Japanese Government will ship to Okinawa under the reversion measures program, I would like to note that it is our understanding that the two governments will cooperate in the shipment of commercial and Japanese rice to Okinawa.